

鯉洲学園同窓会

同窓会報

鯉洲学園同窓会報 第91号

平成29年7月20日

発行：鯉洲学園同窓会

〒319-0323

茨城県水戸市鯉洲町 5965

TEL:029-259-2811 FAX:029-259-6965

編集・印刷 / 鯉洲同窓会事務局

〒121-0831 足立区舎人3-11-26 EPS

TEL 03-5839-3456(代)

FAX 03-5839-3460



農業生産法人と提携したメガファーム畜舎完成

会長挨拶



同窓会長 九石 裕



日頃から同窓会活動に対し會員皆様のご協力を頂き深く感謝申し上げます。

同窓会は70周年記念大会後も會員の情報交換活動を基本に、学園の発展に奮闘しているところです。

学生募集活動に

尽力をお願いします

学園教育の特徴は次の三項目に集約されると思えます。是非、會員皆様の身近な人や出身高校等を訪問して学園の魅力を伝えてくださるようお願いいたします。

一 食と農が結びついた教育

農業生産関連科目を学ぶアグリビジネス科と栄養食品加工を学ぶ食品栄養科が設置されている専門学校は全国で鯉洲学園だけです。理論は勿論、充実した実習施設で実践力が身につきます。

二 酪農の最新施設で学べます
産業界との提携事業により整備された千頭を超える大型経営、機械化が進んだ搾乳施設などで最新設備を使った技術習得が出来ます。

三 全国に人脈が作られます

今年のアグリビジネス科入学生は北は青森県、南は熊本県と学生の半数が県外です。在学中は切磋琢磨し合い、卒業後は全国に友人が出来ます。

具体的な学生募集活動で特にお願いしたいのは、添付しました「鯉洲学園自慢」のリーフレットの配布です。高校三年生が進路相談会に臨む時期に高校を訪問して、学園の魅力を伝えて下さい。

本部財政の確立に向けて

ここ数年は学園をとり巻く教育環境の激変に対応するため、数度の募金活動を実施してきました。今回の70周年記念募金活動も半年間延長する事にいたしました。

会費納入や募金の応募について、是非お願いしたいのは、多くの會員の方々に広く協力して頂くことです。

會員の皆様には大変恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

学園長挨拶

学園の存続・発展に向けて



鯉淵学園農業栄養専門学校
学園長 近藤博彦

平成29年度の農民教育協会
の事業計画の基本方針は、財政の
現状を厳しく認識し、学園の存
続・発展に向けて不転の決意
で取り組むことです。このため
学園の内部改革の推進と行政・
関係教育機関・企業等外部との
提携による発展性を追求し、将
来構想の構築を図ります。
具体的には、園芸におけるJ
A全農いばらき・農業生産法人
NCSアグリサポートとの提携
畜産における農業生産法人「瑞
穂農場」との提携について、さ
らに充実・拡大を図ることです。
そして、農業人材育成に理解あ
る企業等との新たな業務提携の
締結にも積極的に取り組みます。
また、東京農業大学との連携
協定にもとづき、農大生の農場
実習の受け入れなどを着実に具
体化します。そして、中長期3
ヶ年計画の策定と学園の中長期

的なあり方の選択肢の一つとし
て専門職大学について研究・検
討を進めます。

募集期間が延長される創立70
周年記念寄付金へのご協力を
願います。

一昨年から同窓会の皆様方
のご協力を得て、創立70周年記念
事業に取り組んできました。平
成27年11月28日の記念式典と記
念講演会の開催、史跡木碑の建
立、同窓生の活動事例集の発行
学生・教職員の国内・海外研修
の支援等を実施してきました。

こうした記念事業を実施する
ために70周年記念寄付金をお願
いし、寄付金の募集は目標20
00万円で、平成29年3月末ま
でに約1200万円を超えるご
寄付をいただきました。

同窓会では目標達成に向けて、
さらに半年間延長して募集を継
続することを決定されましたの
で、引き続きさらに多くの方々
に寄付金へのご協力をお願い
いたします。

リーフレット「鯉淵学園自慢」
を活用した学生募集をお願い
いたします。

今年の入学者は64名で昨年の
54名より10名増加しましたが、
目標とした80名からみると厳し
い結果となりました。高校生の
就職状況の改善、18歳人口の減
少などの影響が大きいと思いま
すが、募集活動の徹底が必要と

反省しています。今年も80名を
目標に、リーフレット「鯉淵学
園自慢」を作成し、同窓生の皆
様方には、これを活用した親戚
や知人への鯉淵学園の宣伝をお
願いたします。

同窓会報の送付にあわせてリ
ーフレットを2部同封しますの
で、学園のホームページを見て
いただくようにおすすめて下さい。

学園改革の概要と
学生募集に協力を

学生支援グループリーダー
前嶋 智



日頃より本校の教育にご理
解・ご協力を賜り誠にありがと
うございます。今年度は昨年度
を上回る新入生を迎えることが
出来ましたが、定員を充足しな
い厳しい状況は継続しておりま
す。

一 学園改革について

平成29年度も学園改革をさら
に力強く進めていきます。計画
にもとづき、農業法人などの
提携をさらに進めておりますが、

特に学生確保を最重要課題とし
て捉えております。募集方法と
して学校訪問は基本ですが、情
報技術を利用した新たな方法と
してフェイスブック、ラインで
の情報発信を行っております。ま
た、昨年発行した「鯉淵学園自
慢」を引き続き発行し、学園の
魅力発信に努めます。

二 魅力ある学園づくり

学生数確保には学園の魅力向
上という本質的な改善がなされ
なければなりません。社会情勢
の変化に応じた人物像を提示し、
それをめざす若者に学びの機会
を提供して夢の実現を後押しす
ることは、本校の社会的な責任
でもあります。



若さはじける農場実習

(一) カリキュラムの見直しと再編

昨年は教育課程の根幹をなすカリキュラムを見直し、アグリビジネス科のコースを再編しました。これにより従来よりも柔軟に様々な分野での活躍を後押ししていきます。

(二) 教室の冷房化など教育環境の整備

教育施設については大規模な拡充は難しいものの、昨年度は教室冷房を整備するなど学習環境の向上に努めています。また現在ある施設も学内情報を集約してより効率的な運用に努めてきました。

(三) 就職率100%に向けて教職員の研修支援

教職員の資質向上も重要な課題で、70周年記念事業による教職員のための研修支援を実施しています。就職・資格取得も重要ですが、企業との提携や自治体などの就農支援事業との連携を推し進めた結果、ここ数年は就職希望者の就職率はほぼ100%に達しています。資格取得についても栄養士実力認定試験では好成績を維持しているほか、農業系では農業簿記など新たな資格への対応も進めています。これらの取り組みにより入学生の満足度をより一層高める成果が出ています。

(四) 学園業務の効率化

学園の業務の効率化も重要な課題です。往時よりも専任スタッフが増える中、上記の様々な課題に取り組んでゆくためには、個々の力を発揮するとともに、的確な連携体制の確立が必須となります。数年前より従来の部・課制に代わりグループ・チーム制を取り入れ、業務分担の再統合を図ってきました。そのほか特別な課題にはプロジェクトチームを随時立ち上げて即応態勢をとっています。

以上、簡単ではありますが近年の取り組みを紹介しましたが、厳しい状況は続いています。が、むしろ本校が社会に果すべき役割は増えていると感じています。職員一同力を合わせて職務に邁進してゆきます。

三 学生募集協力をお願い

今年度も学生募集活動が本格化します。メディア活用や高校訪問など本校職員も全力を挙げ取り進む所存です。同窓会諸兄弟におかれましても可能な範囲で母校を訪問いただければ幸いです。また、前述した「鯉淵学園自慢」を活用した身辺での口コミによる魅力発信もお願いできればと思います。お忙しいところ恐縮ですが、何卒よろしくお願いいたします。



学園創立70周年記念事業寄付金の

お礼と継続のお願い

公益財団法人農民教育協会

常務理事兼事務局長 海老澤 義昭

各種記念事業を展開しうるために、目標としました2000万円の実現に向け平成29年6月末の期限を平成29年11月末まで延長し募集することとしました。同窓会会員の皆様方の更なるご支援、ご協力を賜りたく衷心よりお願いする次第であります。よろしくお願い申し上げます。

同窓会の皆様には、(公財) 農民教育協会・鯉淵学園農業栄養専門学校に対する日々のご支援・ご協力ありがとうございます。鯉淵学園は、平成27年に創立70周年を迎え、記念式典を盛大に挙行し、70年の足跡を辿りながら、鯉淵学園の存立意義を内外に大きく知らしめす事となりました。

記念事業の一環としてお願いして参りました寄付金は、同窓会会員を中心に多くの賛同を得て平成29年3月末現在で1266万円となりました。70人の方からは、10万円以上の高額寄付金をいただき表彰およびご芳名を図書館内に掲示させていただきました。また、平成27年、28年と複数回にわたって寄付された方もおられ役職員一同感激しております。

つきましては、学生支援事業、6次産業化支援事業、卒業生活動事例集発行等の出版事業等、



職員集合写真

新入学生の抱負

はつらつと鯉淵キャンパス躍る



食品栄養科新入生



アグリビジネス科新入生



アグリビジネス科
畜産コース 1 年
鈴木 珠世 (茨城県出身)

鯉淵学園に入学するまで本格的に畜産に触れたことはありませんでした。そのため、専門的に畜産を学ぶことに不安がありました。私のように全くの初心者よりも、家や高校ですでに畜産について学んでいる人の方が多いと思ったからです。

中学校卒業時も農業高校への進学を考えていたのですが、決断ができず普通高校に進学しました。高校 3 年の夏に鯉淵学園で 2 日間の実習を行い、そこで環境の良さや非農家の先輩方も多くいることを知り、ここで畜産について学びたいと強く思いました。

今はまだ入学して 2 か月ほどですが、すでに動物相手の緊張感や畜産の現状を知り、憧れだけでは乗り越えていけないこと

を実感しています。実習では主に飼料やり、搾乳、哺乳、除糞を行っていただきます。初めてのことが多く、戸惑うこともありましたが毎回たくさんのお話を学べるのでとても楽しいです。瑞穂農場では鯉淵学園だけでは経験できない哺乳や肉牛の飼育の実習ができるので、それもまた楽しいことの一つです。

私の将来の夢は、観光牧場で働くことです。食育にも関わりたいと思っています。私たちの命を支える食だからこそ、家畜の健康や環境に気を配り、よりよくしていく必要があると思います。そのため、2 年間の鯉淵学園生活で畜産をよく理解し、課題解決のための力を養ってきたいです。



食品栄養科 1 年
田中 綾香 (茨城県出身)

鯉淵学園農業栄養専門学校に入学してからの抱負が三つあります。

一つ目は、勉強についてです。私は将来、学校の栄養士として

働きたいと考えています。栄養士になるための勉強はとても大変で、覚えることがたくさんあります。基礎給食管理学の授業では、食品成分表と電卓を使って栄養計算や発注書の書き方などを学んでいます。計算式がたたくさん出てきてわからなくなってしまうこともありましたが、復習などをして身につけていきたいと思います。

二つ目は、特待生としての特別実習です。朝食の準備・夕食の片づけの実習があります。この実習では、実際の調理現場での動き方、調理のしかたや片づけ方などを学び、実践力を身につけたいと思います。そして、栄養士として働き出したときにこの実習を活かすことができるように実習に取り組んでいきたいと思います。

三つ目はレポートについてです。私は、教科書などの文をまとめるのが苦手なため、レポートを書くのが長くなりがちになってしまっています。早くレポートを書くことに慣れて誰が読んでも分かりやすく、読みやすいようなレポートを作成していきたいです。そして、文章をまとめる力を身につけていきたいです。

この三つを抱負として、卒業までの 2 年間で立派な栄養士になれるように、一緒に勉強する仲間とともに頑張りたいと思います。

同窓生の活躍紹介

地域の明日を拓くリーダーたち

長野県農協中央会のトップリーダー

(敬称略)



長野県農業協同組合中央会会長
雨宮 勇 (23期)



長野県農業協同組合中央会副会長
豊田 実 (24期)

雨宮氏は、昭和43年3月に学園芸科卒業の23期生で、卒業と同時にJA木曾に営農技術員として就職しました。その後、地元のJA原村に転籍し、合併により現在はJA信州諏訪と名称変更となり、平成11年4月より常務理事、同20年5月より専務理事となり、同23年5月より代表理事組合長に就任しました。平成28年6月の長野県農協中央会・各連合会の役員改選に当たり、長年の営農指導経験を認められ、会長に選任されました。雨宮氏は「農協改革、TPPと課題が山積する大転換期を迎えている。農家所得の増大、地域の活性化に向けた取り組みを先行的に進めたい」と述べています。

豊田氏は、昭和44年3月に学園協同組合科卒業の24期生で、卒業と同時にJA芹田に就職され、その後、合併により「JAながの」と名称変更となり、主に金融関係の勤務でした。平成14年5月から常務理事、同20年5月から専務理事となり、同23年5月より代表理事組合長として勤められています。平成28年6月からは、長野県農協中央会・各連合会の副会長に選任され、多忙な業務を精力的にこなしています。特に、長野県北部5JAの合併には中心的な役割を果たし、平成28年9月に「新JAながの」が誕生し、合併後も組合長として重責を担っています。JAながのは、長野県下一番の規模のJAであるとともに、長野県農業の牽引役として今までの経験を十分に生かし力量を発揮してくれると確信しております。

文責 長野県支部長
牛山 喜文

市町村・農協団体のトップリーダー (敬称略)

現職市町村長として
先導する方々

- 岩手県金ケ崎町長 高橋 由一 22期
- 山形県三川町長 阿部 誠 28期
- 埼玉県毛呂山町長 井上 健次 35期
- 福井県池田町長 杉本 博文 33期
- 沖縄県久米島町長 大田 治雄 31期

現職農協組合長として
活躍する方々

- 佐賀県白石町議会議員 久原 房義 26期
- 佐賀県伊万里市議会議員 松尾 雅宏 28期
- 沖縄県沖縄市議会議員 池原 秀明 19期
- 岩手県岩手中央農業協同組合長 久茲 宗悦 23期
- 山形県酒田市 袖浦農業協同組合長 五十嵐良弥 33期
- 茨城県稲敷農業協同組合長 田丸 治 特選23期
- 群馬県甘楽富岡農業協同組合長 鷲坂 秀幸 26期
- 長野県信州諏訪 農業協同組合会長 雨宮 勇 23期
- 長野県ながの農業協同組合長 豊田 実 24期
- 静岡県御殿場農業協同組合長 芹沢 秋雄 24期
- 広島県三次農業協同組合長 新田 靖 20期
- 愛媛県西条市農業協同組合長 加藤 尚 25期

現職市町村議会議員として
活躍する方々

- 岩手県久慈市議会議員 大澤 俊光 21期
- 山形県鶴岡市議会議員 加藤 紘一 28期
- 山形県三川町議会議員 鈴木 重行 41期
- 茨城県坂東市議会議員 青木 和之 30期
- 山梨県北杜市議会議員 藤原 尚 34期
- 静岡県森町議会議員 小澤 哲夫 29期
- 島根県安来市議会議員 遠藤 孝 23期
- 島根県奥出雲町議会議員 川西 明德 25期

(注)

掲載した公職名とご氏名は同窓会都道府県各支部長より報告のあった方のみといたしました。

地域で輝き食と農に挑戦するリーダー

都市近郊の循環型農法で
天皇杯受賞



埼玉県三芳町 指導農家
埼玉県地域指 阿部 博之 (45 期)

一昨年11月、農林水産省などが主催する「農林水産祭」のむらづくり部門で、「三芳町川越いも振興会」が天皇賞を受賞しました。

江戸時代から続くサツマイモの産地としてブランド化を進め、明治時代に県内で開発された高級品種「紅赤」の優良系統選抜などに取り組んできました。

落ち葉を堆肥に使う伝統農法を守る一方、焼酎やサツマイモアイスなどの商品化にも挑戦しました。「都市近郊の伝統的な循環型農法を継承する住民参加型のむらづくり」が評価されました。

江戸時代から川越はサツマイモの名産地と言われてきました。実際に栽培していたのは、旧川越藩の入間郡や所沢市で、特に入間郡三芳町上富で作られる

「富のいも」は有名でした。サツマイモ農家が少なくなつた現在でもこの土は水はけが良くサツマイモ栽培に最適です。

「紅赤」は川越を代表する品種です。甘みが控えめで上品な味です。栽培に手間がかかる割には収穫量が少ないため、現在では甘みの多い「紅あずま」「紅はるか」「シルクスイート」などが多く作られています。ホクホクとした食感は紅赤に勝るものはないと思っています。来年は「紅赤120周年記念イベント」を計画しています。

また、紅赤の系統選抜、プレミアム紅赤の研究、開発も視野に入れており、やる気のある都市近郊農家で組織する「富の川越いも振興会」のメンバーとして誇りを持って活動しています。埼玉県地域指導農家として青年農業者の育成はもとより、県農業の更なる発展のために一層努力していきたいと思えます。

肉牛生産で匠の技を築く

平成27年11月にNHKテレビプロフェッショナルで、学園39期卒の鎌田秀利氏を取り上げた番組が放映されました。ご覧の方も多かったのでは思います。本会が中心となつて刊行した



宮崎県串間市 鎌田 秀利 (39 期)

鯉淵学園卒業生生活事例集から内容を抜粋して紹介します。

本人の略歴

氏は学園卒業後、地元串間市内の建設業者が経営する畜産法人部門に就職しました。同社は和牛繁殖と肥育の大型経営で数々の全国枝肉コンクールで受賞するなど県内では著名な法人として知られています。氏は平成16年まで同社の場長として活躍後に退社して独立しました。現在までの11年間で飼育規模は、繁殖90頭、肥育100頭の一貫経営に育て上げている。

① 飼育の特徴

①肉牛の繁殖改善は母牛の栄養管理が大切
特徴的なのは「普通より若干上の飼育技術」繁殖はボディコ

ンデションが重要と考えて実践している。

②親牛はある程度しっかりとポリユームがないと良い子牛が生まれにくい。したがって親牛に良質な粗飼料をしつかり給餌するよう心がけている。

③4回給餌のメリット
朝9時、昼1時、夕方5時、夜9時と1日4回の給餌を行っている。4回給餌は回数が増えて労力がかかるが、メリットとして

◎牛を観察する機会が増えて事故予防が出来る

◎飼料ロスが減る
◎一度に多量の餌を摂取する事がないので胃腸が健康等多くの利点がある。

③絶対ではないが血統重視
宮崎県では数年前発生した口蹄疫により優秀な種牛が処分された。

氏は実家で飼育されていた優良系統種牛「秀菊安」を中心にその兄弟牛を飼育している。いづれも、脂肪交雑、サシ、ロースなど肉質に優れる系統である。

二 地域共同の力で取り組む

ブランド化をはかるため、地元のはまゆう農協検定センター、以前勤務していた畜産法人、近隣のT牧場と連携を深めて「秀菊安」の交配を薦めるなど肉質改善を地域として取り組んでいる。

支部・同期会の主な活動

新潟県支部総会



平成28年11月5日～6日の1泊2日の日程で新潟市内で支部総会が開催されました。土曜日午後に参加して総会を行い無事終了。役員は重野会長(23期)が留任、これまで事務局長を務めてきた佐藤恒平(25期)氏が新たに副会長に選出されました。

新潟県内には250名を超え、会員がおりますが、県域が大

変広く特に海岸線が縦(南北)に長いのが特徴です。

したがって、支部総会も日帰り開催は難しく、1泊2日で行っています。支部役員も上越、中越、下越、佐渡の4ブロックにわけて各3名づつ配置しています。開催地も2年前の前回は佐渡地区、今回が中越地区の新潟市内と持ち回りとなっております。

文責 同窓会本部 九石 裕

北海道支部総会

平成28年11月24日に5年ぶりに総会を開催しました。

146名の現会員に案内し、21名の参加でした。

参加者の21期の佐藤雅子さんからは、久しぶりに鯉淵魂にふれて、あの何もない様な寮での2年間が、その後の生き方に大きく影響し、学園で育った思いを強くしたとの感想を幹事に寄せられました。

若い後輩の活躍も嬉しいと期待を寄せており、鯉淵魂の再確認の場となりました。

総会では、学園改革の取り組み状況や農業法人との業務提携、東京農業大学との包括連携協定



等について情勢報告をしました。併せて平成29年度の学生募集の支援、学園創立70周年記念寄付金の支援をお願いしました。また、農業実践事例として32期の伊達市の菅原俊和さんから大規模低コスト生産を目指す野菜栽培事例について発表を頂きました。

役員改選については、若返りをすること了解を得ました。懇親会では、19期の升田文夫さんのハーモニカ伴奏で寮歌を声高々と歌い、2次会ではカラオケで全員が美声を披露し合い、楽しい同窓会となりました。

期別出席者

11期	1名
13期	1名
16期	1名
17期	1名
18期	3名
19期	4名
支部長	中西 孝通

お知らせ

会員名簿登録データ管理及び同窓会報印刷発送委託先の変更

これまで会員名簿登録データ管理を委託してきた会社が社内事情により契約業務を終了したため、本部役員会で協議を重ねた結果、本年3月に東京都足立区舎人の株式会社「同窓会事務局」と新規委託契約をいたしました。

また、同窓会報の印刷・発送については、これまで会員名簿データ管理委託先から会員の所在・会費納入の有無を確認した宛先シールを受取り、これを印刷会社に渡して印刷・発送業務を随意契約して頂きました。

今回の会報発行からは、これを一体化して名簿登録データ管理委託会社の「同窓会事務局」に、会報の編集・印刷・発送、会費納入管理に至る一連の業務を一括委託することにいたしましたのでお知らせします。

岩手県支部総会



一関市平泉町のホテル平泉「武蔵坊」で、支部総会を会員15名が参加して開催しました。総会は午後3時から開かれ、来賓の同窓会副会長の西村勝夫氏(22期)から学園の近況報告等のご挨拶を受けた後、平成27年度活動報告と収支決算並びに平成28年度活動計画と収支予算をそれぞれ協議し、了承されました。その後懇親会に入り、参加者より近況報告等情報交換を行い、

山形県支部総会



和やかに進んで、最後には全員で肩を組んで寮歌を歌い、次回開催地での再会を誓い幕を閉じました。翌日朝食をとった後、平泉町出身の吉田孝市氏(19期)より頂戴した中尊寺「金色堂」讃衡蔵と天台宗別格本山「毛越寺」の優待拝観券を各自に配布し解散となりました。文責 支部長 高橋勝(26期)

平成28年11月26日、天童市ホテル王将で開催されました。10期生から44期生まで29名が出席し、鯉淵学園から小沼が出席しました。開会の挨拶に続き物故者へ黙祷をし、保科周三(16期)支部長の挨拶があり、来賓挨拶及び学園運営の取組について小沼が説明をしました。協議事項として、役員改選があり、保科周三支部長から世代交代の提案があり、新支部長に長橋雅司氏(28期)が推挙されました。新役員体制については、副支部長に加藤一氏(28期)、同じく副支部長に遠藤修氏(32期)、事務局長に横尾芳也氏(30期)、会計担当に駒林明美氏(30期)が満場一致で承認されました。また、地区幹事には村山地区に鈴木剛氏(35期)、最上地区に野口清彦氏(27期)、置賜地区に佐藤修氏(36期)、庄内地区に阿部誠氏(28期)がそれぞれ就任しました。新支部長の長橋雅司氏から就任の挨拶があり、鯉淵学園同窓会山形県支部活動を活性化するため、若い卒業生にも呼びかけ、一致団結して運営したいと力強い決意表明がありました。懇親会では、鯉淵での懐かしい寮生活に仲間との歓談で盛り上がり、最後に全員で寮歌を力一杯合唱し、懐かしい一時を過ぎました。

農村生活科15期生の集い



保科周三支部長、長期間支部をまとめていただきましてありがとうございます。長橋新支部長他、新役員の皆様には引き続きよろしくお願ひいたします。山形県支部のおもてなしに感謝いたします。文責 鯉淵学園 小沼 和重

平成28年10月19日から21日の泊3日で開催。学園はどのようになら変わったのだろうか?ぜひ茨城県での要望が強く、喜寿の祝を兼ねて開催しました。卒業後57年が過ぎました。その間、宮崎県、兵庫県に集まり

今回が3回目です。

1日目は友部駅集合、懐かしの学生食堂で昼食を味わいました。寮歌を口ずさみながら園内を散策し、大洗ホテル泊。海原を眺め、夜の更けるのも知らず会話がはずみました。

2日目は県北芸術祭見学も兼ねて西山荘、袋田の滝、天心記念美術館、六角堂を見学し、五浦観光ホテル泊。

3日目は偕楽園を散策し、好文亭より千波湖を望み、水戸駅で散会しました。次回は2年後に長野県の予定です。

最後になりましたが、学園に勤務し、後輩の指導にあたっていた同期の堀田弘さんが参加してくださいました。ありがとうございました。

文責 幹事 小林 幸代

20期生第9回同期会

20期生の第9回同期会は77名(内夫婦5組)が参加し、三重県の伊勢志摩で開催しました。

今回は「伊勢神宮参拝」と昨年5月に開催された「伊勢志摩サミットの足跡巡り」がメインでした。

4月5日は全員が指定ホテルに前泊。その日は各自自由に伊勢の名所旧跡やグルメを楽しみました。

翌日は早朝から食物の神様が鎮座する伊勢神宮「外宮」や夫



婦岩のある「興玉神社」を参拝。その後、世界で初めて真珠養殖に成功した「真珠島」、飼育種類日本一の「鳥羽水族館」。また大小の島々や美しい豊かな自然が広がる「英虞湾」を巡り、ホテル「宝生苑」へ。このホテルは安倍首相がサミット開幕に際して議長国会見を行った和風リゾートホテルです。

このホテルで懇親会。私たちは卒業以来52年の年月が過ぎましたが、人生で最も感受性の高い時期に2年間寝食を共にした仲間同志。懇親会では近況報告や情報交換等大いに盛り上がり、時の過ぎるのを忘れるほどでした。

4月7日はサミットが開催された「志摩観光ホテル」の拝観特別の計らいで早朝から入館させていた、会談処では安倍首相や各国首脳の椅子に座ってご満悦の同志も。

その後、天皇家のご先祖天照大神が祀られている伊勢神宮「内宮」を参拝し、深い祈りを捧げました。

午後1時、清々しい気分でご次回埼玉での再会を約し解散しました。

文責 濱谷 叡

鯉淵学園同窓会大会

の開催案内

第33回大会を本年11月18日(土)に、鯉淵学園において開催いたします。

役員並びに都道府県各支部長はじめ、各会員の積極的なご参加をお願いいたします。

若き時代を過ごした思い出深い母校も、教育環境が大きく変わりました。是非、この機会に来校し見学して下さい。ようお願いたします。

同窓会発行の書籍の紹介

「食農山漁村への想い」

一農学徒の実践

研究科11期で福井県の村上利夫氏の学究者、文化人として活動されてこられた食と農への強い想いが収められている。



「書物散策」

10期で兵庫県の加藤 整氏が、これまで17冊に及ぶ「書物」に関して「書標」に投稿されてこられた内容を、43頁の「小形本」にまとめられた。



「甘くて大きなクリづくり」

・「矮化栽培法」

15期で茨城県の堀田 弘氏が、クリの新しい栽培方法の技術書を発行。写真入りでわかりやすく解説した。



創立70周年記念寄付金実績 (県別人数・金額)

(平成27年度・28年度合計)

平成29年3月31日現在

都道府県	人数	金額	都道府県	人数	金額
北海道	8	180,000	和歌山県	1	10,000
青森県	3	40,000	奈良県	0	0
岩手県	16	450,000	京都府	8	180,000
秋田県	4	130,000	大阪府	2	30,000
山形県	13	150,000	兵庫県	8	260,000
宮城県	6	60,000	岡山県	3	25,000
福島県	13	330,000	広島県	1	10,000
茨城県	77	3,877,000	鳥取県	2	20,000
栃木県	12	240,000	島根県	13	290,000
群馬県	11	350,000	山口県	8	115,000
埼玉県	8	405,000	徳島県	3	30,000
千葉県	5	150,000	香川県	2	130,000
東京都	9	1,400,000	高知県	1	20,000
神奈川県	4	130,000	愛媛県	4	220,000
山梨県	1	10,000	福岡県	1	10,000
長野県	17	370,000	大分県	4	53,000
新潟県	15	350,000	佐賀県	2	30,000
富山県	6	60,000	宮崎県	3	21,000
石川県	6	70,000	長崎県	0	0
福井県	11	730,000	熊本県	0	0
静岡県	4	90,000	鹿児島県	5	230,000
愛知県	3	40,000	沖縄県	10	310,000
岐阜県	3	30,000	支部・同期	4	195,860
滋賀県	2	15,000	その他	5	290,000
三重県	4	130,000	合計	351	12,266,860

※ 「19期生中部集会44名」及び「20期生22名」は各1名で整理した。

鯉淵学園創立70周年記念 寄付金の利活用について

(公益財団法人) 農民教育協会

学園創立70周年記念寄付金は、目標額を2千万円として募金のご協力をお願いしてまいりました。平成29年3月末日現在の実績は12,266千円となりました。

本寄付金は以下の事業に活用させていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【寄付金利活用計画】

- 一 学生・教員の 研修等活動支援 1000万円
- 二 六次産業化教育活動支援 700万円
- 三 事例集の出版 65万円
- 四 記念式典・募金活動 関係費用 235万円

【寄付金に関する問合せ先】

〒319-0333

茨城県水戸市鯉淵町5965

公益財団法人

農民教育協会事務局

(鯉淵学園内) 担当・鈴木

電話 029-259-5116

FAX 029-259-6965

学園創立70周年記念事業寄付金募金者一覽

6 5 5 5 5 5 4 4 4 4 4 4 3 3 3 3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 1
 期期
 岡大高砂黒熊小大阿荒上西佐金大小村加山石北佐浅中丸梅藤
 本塚田田田谷泉沼部木田村藤子山川上藤内田島藤利野山下井
 和芳義邦 眞 秋 典節 浪末五昭 利 和 政昭 武
 茂吉憲雄雄俊吉淳功男忠夫夫純雄吉月郎優光隆郎昭男一巖夫

10 10 10 10 9 9 9 9 9 9 9 9 8 8 8 8 8 8 7 7 7 7 7 7 7 7 6
 期期
 市長加福高大阿青福松高田鈴金高原須松寺鈴松佐吉大奥瀬竹
 野谷 藤田橋地部木丸田橋所木高島口崎本尾木田野澤瀧田瀬津
 俊 孝利重 博 隆 光敏 豊智 政 暄和秀 勝正
 弘子整三清男豊敬房昇三守雄輔武治久茂勝實信男子巖巳義廣

11 10 10
 期期
 大及三野篠盛藤塚大野但及真柴大倉島野桐早野駒加村小宮三
 洞川次頭原山村越都内木川下 武重村原生川口崎藤上島崎須
 徳え孝久和純基博甲政文寿重克一多小純浩美 定利好岩久
 優江子三子夫郎雄海子久雄宣男也夫恵二治義代稔子夫文美登

14 14 14 14 14 13 13 13 13 13 13 13 13 13 13 12 12 12 12 12 12 12 12 11 11 11 11
 期期
 三米大西福曾大梅岡稲西新上田若鈴若大高服三尾普冲佐鹿高
 部野竹瀉良根高崎野川向地山辺林木林平津部徳石江田藤又橋
 美弥勝範充 孝ち正詞通重扶久吉 光政政 正文清共ワ敏
 津寿 子男次子雄力涉臣か夫郎哉晴子登雄均弘巨明毅忠江次成力夫

19 19 19 19 19 19 18 18 18 18 18 18 17 17 17 16 16 16 16 16 16 16 15 15 15 15 15 15 15 15
 期
 早 鈴 井 升 溝 森 小 中 大 佐 岡 松 宮 住 札 久 走 宮 須 保 土 惣 佐 山 堀 岩 鈴 菊 満 青
 川 木 上 田 口 谷 貫 西 川 藤 本 島 里 吉 木 田 出 内 田 科 方 利 木 崎 田 淵 木 地 留 木
 富 シ 嘉 文 道 富 孝 鐘 穂 秀 徹 里 達 久 義 榮 幸 哲 周 貞 善 紘 廣 貞 藤 栄
 美 ブ 保 夫 寛 勳 康 通 一 栄 治 雄 子 男 子 正 八 司 也 三 信 信 一 巖 弘 齐 美 三 男 吉
 子 ノ 留 夫 寛 勳 康 通 一 栄 治 雄 子 男 子 正 八 司 也 三 信 信 一 巖 弘 齐 美 三 男 吉

22 22 22 21 21 21 21 21 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 19 19 19 19 19 19 19 19 19
 期
 須 広 小 佐 岡 齋 熊 天 22 喜 石 岡 加 安 酒 秋 奥 濱 宮 北 高 19 19 19 19 19 19 19 19 19
 藤 木 森 藤 本 藤 谷 谷 生 納 井 崎 藤 藤 寄 場 野 谷 平 口 橋 中 部 集 会 44 名 部 田 垣 崎 辻 間 店 橋
 久 文 康 雅 嘉 和 義 博 善 洋 知 菊 ふ 信 工 忠 44 名 泰 邦 盛 武 芳 茂 利 和
 孝 子 雄 子 明 子 宣 良 文 衛 繁 明 子 治 ち 一 叡 ミ 彬 彦 郎 雄 光 司 次 雄 彦 江

23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 23 22 22 22 22 22 22 22 22 22 22
 期
 池 志 山 遠 牛 小 近 廣 松 小 重 九 五 江 平 田 佐 雨 室 久 新 奈 横 大 高 金 西 高 段 中
 田 村 中 藤 山 林 藤 瀬 本 泉 野 石 嵐 幡 野 中 藤 宮 本 茲 関 良 井 尾 沢 橋 城 村 木 田 山
 陽 宗 喜 信 弘 眞 雄 徳 竹 ゆ き 修 寿 貞 マ 宗 八 保 千 由 正 勝 経 恭 洵
 子 隆 治 孝 文 継 道 一 栄 一 夫 裕 男 子 身 男 之 勇 工 悦 代 真 幸 代 一 春 夫 吉 範 子

25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 23 23 23 23 23 23
 期
 柴 児 山 根 宮 佐 室 菅 鹿 黒 森 佐 青 澤 川 喜 川 壹 山 河 長 田 高 久 岡 松 中 小 鷹 坂
 田 玉 本 本 崎 藤 本 原 嶋 澤 本 木 木 内 元 山 尻 岐 家 西 尾 井 木 田 野 浦 村 森 西 口
 芳 昭 敬 保 恒 直 幹 賢 照 教 ゆ 正 昭 守 安 賢 恒 輝 敏 敏 誠 幹 義 修 正 睦 利
 治 一 宜 夫 章 平 志 彰 雄 治 美 公 こ 裕 司 良 廣 子 蔵 夫 夫 明 光 剛 男 人 一 雄 子 久

